



年 組 名前

道新 ワークシート

SNS デマ 被災地不安

正義感で拡散、混乱助長

能登地震

専門家、注意呼び掛け

能登半島地震の発生以来、インターネットの交流サイト（SNS）上などでデマが拡散し、被災者の不安をあおっている。被災地の助けになりたいという「正義感」が結果的に混乱を助長した事例も出ており、専門家は「感情を高ぶらせるような情報が特に危ない。広げる前にいったん立ち止まって」と強調する。

石川県七尾市の避難所で7日、男性（45）が緊張感を漂わせていた。「寝るときはスマートフォンや玄関の鍵、お金をポケットに入れている。SNSにも不審者情報が流れているから」

男性は3日、知人から「火事場泥棒が乗っている」という、ナンバーも写る銀色のワゴン車の写真を見せてもらった。ネットで拡散している情報だと聞き、スマホで接写しその後数人に伝えた。

七尾市の別の避難所では、SNS情報を引用する形で同じナンバーのワゴン車に注意を促す紙が張られた。珠洲市の複数の避難所でも同様の情報が掲示された。

しかし実はこのワゴン車は、携帯電話局の修理を請け負った電気通信会社のものであった。同社によると、

作業員2人が2日に現地に入ったという。「被災された方を助けたいという思いで働いている。誤情報が拡散されるのは本意ではない」と困惑した様子で話した。

ネット上でも既に、デマだったという情報が流れている。しかし、不審者を心配していた避難所の男性は把握しておらず「知らなかった。スマホの充電もいっなくなるかわからないし、情報も入ってこない。何が本当でうそなのか分からない」と驚いていた。

デマ投稿の発信元の詳細は不明だが、拡散に大きく寄与した能登半島出身の20代という人物が取材に応じた。X（旧ツイッター）でワゴン車の写真とともに「とても憤りを感じます。拡散お願いします」と投稿したアカウント主だ。この人物は地震後、現地の被災状況などを活発に発

信してきた。デマとの指摘を受けてX上で謝罪し、既に投稿も削除したが、千件超がりポスト（転載）されたという。「生まれ育った地の役に立ちたかったが、とても悔んでいる」。それでも、被災地情報の発信は今後も続けるとした。

メディアリテラシーに詳しい法政大の坂本句教授（メディア情報教育学）は「根拠のない情報を真に受けて広げると混乱が起きる。投稿が正義感からなのか、悪意があるのかは関係がない」と注意を呼び掛ける。

悩ましいのは、被災者の不安が全て杞憂（きゆう）とは限らないことだ。ボランティア目的で来たとする男が窃盗容疑で逮捕される事件も起き、不確かな情報でも共有して身を守ろうとする動きが広がる。

坂本教授は、真偽不明の情報を完全になくすのは難しいと指摘。その上で「裏付けが乏しいと感じたら、傍観せず『根拠は何なのか』などと積極的に声を上げる」ことが大切だ」と話した。



スマートフォンに保存したワゴン車の写真を示す男性。不審な車と聞き、知人のスマホの画面を接写したものの、のちにデマだと判明した。7日、石川県七尾市（画像の一部を加工しています）



年 組 名前

道新で ワークシート

- ① 写真（スマートフォンに保存したワゴン車の写真）は火事場泥棒が乗っているというデマの写真であった。実際はどのような車であったのか書きなさい。
- ② 記事を見て、デマ投稿の発信者はどのようなSNSを使って投稿をしたのか。次のア～エから1つ選びなさい。
- ア Facebook
 - イ X
 - ウ TikTok
 - エ Instagram
- ③ 法政大の坂本旬教授は、メディアリテラシーについて「真偽不明の情報を完全になくすのは難しい」とした上で、どんな視点が大切と述べているか。20字以内で書きなさい。